

이그림은, 정말, 山水를 보는데는 又ハ근 것 又ハ것과 같다

(見ルト同シ)

그寫眞이, 나에게 람하는 데는 又ハ근 것 又ハ것과 같다

(話スト同シ)





## 第四編 副詞

### 第一節 定義及種類

副詞は、用言又は副詞に副ひて、其の意味を限定し若くは形容する詞なり。

副詞に三種あり、一、本來副詞、二、漢語より轉成せる副詞、三、形容詞より轉成せる副詞是なり。

### 第二節 本來副詞及轉成副詞

本來副詞とは純韓語にして而して必ず副詞以外に使用されざる詞なり。例へば **발서**(既ニ)、**시방**(今)、**아마**(多分)、**거우**(纔ニ)、**맛춤**(終ニ)、**반다시**(必ズ)、**위**(何故)、**엇더케**(ドナナニ)等の如し。  
漢語より轉來せる副詞もその數頗る多し。例へば

極히、甚히、實로、決코、決斷코、畢竟코、永久히、自然히、即今、未嘗不、非常히、非常き卍、異常히、異常き卍等の如し。即ち或るものは漢語その儘にて副詞となり、或るものは코、로及히、き卍の助辭を取りて副詞となる。而して最も普通には히を取りて構成す。

形容詞より轉成せるは其數極めて多し。一切の形容詞に卍の助詞を添えて副詞となす、例へば

입부게. 쉬움게. 이러케. 더러케. 낮부게. 낮게. 처음게等の如し。

又或種の形容詞は、漢語と同じく히を取りて副詞を作る。され共是等も卍を取りて副詞たり得るは勿論なり。例へば

빨히, 녘히, 갑히,等の如し。

副詞の用法は日本語と全く相同じ。

### 第五編 接續詞、感嘆詞及助詞

#### 第一章 接續詞

##### 第一節 定義及種類

接續詞とは、語句又は話頭を接續するに用ふる詞なり、之を三種に分つ。

一、單に事物を重ね、又は語句、話頭を連續せしむる爲に用ふる接續詞。

二、上の事柄と、其の事柄より起る當然の結果たる事柄とを、連續せしむるに用ふる接續詞。

三、上の事柄と、それより起れる恰も反對の事柄とを、連續せしむるに用ふる接續詞。

是れなり。

第二節 第一種接續詞

單に事物を重ねる接續詞は、**및**(及)、**도**(又)、**且**(且)、**혹**(或은)、**或은**(或ハ)、**若**(若クバ)、**고**(并ニ、而ト)等なりとす。例へば

나, 자네, 더 兩班 및 내兄弟.

工夫 **고**, 도, 運動 **습** 시다.

비, 도는, 바람.

바람도 불고, 비도 왔소.

갑도 싸고, 물건도 못코.

비나, **或은**, 눈이 오겟소.

나 **고**, 자네 **고** 만, 갑시다.

거기에는, 先生 **고**, 親舊가 잇소.

單に語句, 話頭を連續せしむる接續詞は、**혹**(或은), **그래서**, **히서**(而ト), **게**다

가, 그런데다가, **히**데다가(ソレニ). 글로브터(ソレカラ). **히**물며(況ヤ)等となす.

汽車로 가나, **或은**, 汽船으로 가나, 關係치 안소.

龍山까지 가서, **그래서**, 汽車를 탑시다.

바람이, **甚히** 불고, **게**다가, 비가 왔스니가, 苦生히소

(又ハ) 그런데다가, **히**데다가,

넬은, 東大門까지 가서, 글로브터, 山에 올라 갑시다.

집에, **아**히 업스면, 寂寞히데, **히**물며, **이**애가 죽었스니.

第三節 第二種接續詞

그래서, **히**서(ソユデ, ソレデ). **그**런고로, **히**고로(ソレ故). **그러**니(又ハ) **그러**니가, **히**니(又ハ) **히**니가(ソレダ카라). **그러**면(ソ레ナ라). **그**런즉, **히**즉(ソウスルト). **싸**라서(從テ), **그**각등으로(ソ레데)等は當然の結果

たる事柄を上の事柄に連續せしむる接續詞なり。

비가만히왔소, 그래서, 빗이 다 떠러졌소.

비가만히왔소, 그런고로, 빗이 다 떠러졌소.

(又ハ그러니가, 하니가)

(但し接續詞を助詞に代へて, 비가만히와서, 비가만히왔스니가, 서니가를添ふるも 矢張同意義なり, 以下も同様なり.)

당신, 來日, 다른데로, 아니가시오, 그러면, 내가, 차져가겠소. (又ハ하면)

악가, 바람이, 브렸소, 그런즉, 비가올테니, 어서갑시다. (又ハ하즉)

봄에는, 산에, 씩이, 마니, 피여요, 싸라서, 구경군도, 만히도, 라, 당기오. (그  
사뉘므로, 토모)

第四節 第三種接續詞

그러치마는, 하지마는, 그러치만서도, 하지만서도 (사우다케레도모

シカシ)。 그런데, 할데 (소레다노니)。 그러나, 그래도 (다가, 소우다가, 마는 (다가, 나르모)。 그러트래도, 그럴지라도 (소레데모)。 그럴거슬 (소우데아르노차)。 그럴망정, 할망정, 그럴지연정, 할지연정 (寧로소 우시타모)。

等は, 上の事柄と, これより當然起るべき結果に反對せる事柄とを 連接せしむるに用ふ。例へば

더 사람은, 이洞内の서, 有名호富者요. 그런데, 貧民을, 아니, 救히, 듀 어요 (又ハ할데)。

그이는, 나, 보, 담, 才, 操, 가, 만, 히, 잇, 소. 그러치마는, 나, 도, 工夫, 잘, 할, 면, 그 이의, 辭, 讓, 할, 지, 아, 나, 요. (又ハ그러치만서도, 하지마는, 하지만서도). 내는, 요, 시, 感, 氣, 가, 들, 었, 소. 그러나, 學校, 에, 는, 가, 겠, 소. (又ハ그래도).

來日은, 山, 行, 가, 고, 심, 호, 어, 요. 마는, 비, 가, 오, 면, 못, 가, 겠, 소. 그山은, 大, 段, 히, 險, 하, 다. 그러트래도, 을, 나, 가, 게, 는, 될, 레, 야. (又ハ그럴

지라도。

그사람도,不可不와야 할 것이요。그릴거슬,맛츨내아니왔소。  
나는,차라리,運動하라 는가갓소,그럴망정,山行은아니가요。  
나는학교에는아니가갓소,그럴지연정,工夫는잘오。

(망정,지연정,日本語には無き趣味深き語なり。今前二例を譯すれば「私ハ寧ろ運動  
シニハ往キマシヨウガ,ソウシテモ,併シ獵ニハ行カナイ」。「私ハ學校へハ寧ろ行カ  
ナイデシヨウ,サウシテモ勉強ハヨクシマス」となるなり)

第二章 感嘆詞

第一節 定義及種類

凡て感嘆する時に發する聲、又は感嘆の意味に使用せらるゝ詞を  
感嘆詞といふ。されば一種の助詞なりといふも差支なし。  
感嘆詞には話頭の始めに措かるゝものと、終りに置かるゝものとの

二種類あり。

第二節 話頭の始に置かるゝ感嘆詞

話頭を云ひ出す時に使用せられて、幾分か感嘆の意味を表はす詞  
は、(으)아(너)아(거)시키(아)노(하)사(드)레等なり。例へば

그,어제왔든사람이요,어디사라요(アノ昨日來タ人ホ、何處ニ住デ  
居マスカ)

여보,더,거시키,어제맛났든사람은,다시맛날수가엿겟지요  
(モシ,アノ,アノホ、昨日逢ツタ人ハ又逢ハレマスマイホ)

자……,맛치갑시다(サア御一所ニ參リマシヨウ)  
자……,始作喜시다(드레,始メマシヨウ)

의如し。  
驚嘆して話頭の始に發する詞に、아……(ア、)。야……(ヤ、)。오(オー)。  
의如し。



아이고(アラッ、アレーッ、マア)。왕왕흡쇼, 윙윙, 윙흡쇼(大變ダ)。이것보아라, 그것보아라, 더것보아라(コリヤコソ, ソラコソ,アレヤコソ)。무어야, 무어시(何ッ)。이런, 그런, 더런(コンナ, ソンナ, ア  
ンナ)。엇재(何デ)。씩, 펴(大變)。삼작(大變)等あり。例へば

아.....놀났다(ア、吃驚シタ)

야.....오래갑만에 보았소(야ーオ久シ振リデス)

오.....그랬소(オーソウデシタ)

아이고, 더天動소리듯개(아레어아ノ雷ノ音ヲキ、給へ)

왕흡쇼, 윙흡쇼(아흡쇼)졸지에暴風이본다(大變ダ俄ニ暴風ガ吹ク)

이것보아라, 눈이온다, 눈이온다(コレ見レ、雪ガ降ル雪ガ降ル)

무어시, 무어야(누가왔서(何誰ガ來タツテ)

무어시, 무어야(더럴理가잇소(何, ソンナ譯ガアリマスカ)

이런 못난 사람이 잇다고(コンナ馬鹿ガアルツテ)

엇재, 무어엇재(내가졌다고(何デ, 私ガ負ケタツテ)

씩(又ハ 펴)크다(大變大キイ)

삼작, 놀났다(大變吃驚シタ)

의如し。

但し아이고는韓語感嘆詞中最も多く使用せらるゝ聲にして、殆んど韓人の感嘆より發する代表的聲となすべし。何れの場合に使用しても、差支なく又他の感嘆詞の上に置くも可なり。

嘆美して話頭の始に發する感嘆詞は, 아이고. 아... 이것보아라.

그것보아라. 더것보아라. 壯하다(ア、立派ダ)。똥타(ア、善イ)。

참(サテモ, 實ニ)等なり。例へば

壯하다, 잘쓰었다(ア、立派ダ, 善ク書イタ)

똥타, 더너편에보아, 입부지안나(ア、善イ, アノ女ヲ見レ奇麗ヂヤ

ナイカ)

참, 옛날 물건이다 (實ニ古物也)

참は驚嘆の場合にも使用さる。

冷笑の意味に用ひらるゝ感嘆詞は, 히……(ヒ……)。 흥(フン)等あり。例へば

히……, 무슨 사람(ヒ……可笑人)

흥……, 국가진일(フン, ソンナ事)

の如し。

失望憤懣の意味に使用せらるゝ感嘆詞には, 앓차, 앓블사(チヨツ)。 예(エーイ)。 하(チヨツ)。 이런, 더러, 그런等あり。例へば

앓차, 앓, 잘못되었다(チヨツ, 又シクジッタ)

예기, 낯분사람(エーイ 惡イ人)

하, 아니된다(チヨツ, 行ケナイナ)

の如し。

是の他을소는「サウダ」と人の説に賛成する時使用され、일서는「サウデナイ」と反對するときに使用され、ささ아は哄笑の聲なり。呼掛の聲여보시오, 여보, 여보게。應答の聲너ーも、之を發する調子によりて感嘆詞となる。

第三節 句又は話頭の終に附く感嘆詞

야지, 지야(サ)。 구나, 구려, 그려(ナ, ネ)。 요(ヨ)。 己세, 로구나(ダ, ネ)。 네(ワイ)。 고말고(トモ)。 尠少シ失望ノワイ等は、句又は話頭の終に附きて感嘆の意を表はす。例へば

여보, 갖치가야지 (一處ニ行クサ)

나도, 갈레지 (私モ行ク積リサ)

그사름도 올테야 (アノ人モ來ルダロウサ)

보아, 거기 와요 (ソラ, ソコニ來マスゼ)

더기왔서요 (ソコニ來マシタゾ)

나도가갓서요 (私モ往キマセウゾ)

(서요は現在には使用せず)

아이고, 똥, 쿠나 (ア、善イナア)

참, 죠, 흐어오 (實ニ善イデスヨ)

참, 고약, 흐사름이로구나 (實ニ惡人ダネ)

참, 입분사름일세 (實ニ奇麗ナ人ダテ)

로그나, 근세는體言に附屬す。

나, 오날은아니가네 (僕ハ今日ハ往カナイワイ)

나도, 가고말고 (私モ往キマストモ)

그사름이, 발서, 갓는걸 (アノ人ハモ一行ッタイ)

걸は現在、過去、未來に共用さる

是の外終止態の助動詞及半語は、その調子に依りて感嘆の意味を

寓するを得。

### 第三章 助詞

#### 第一節 定義及種類

助詞とは他の詞を助くる詞の意なり。されば、體言、用言若くは他の助詞の附きたる體言、用言を助けて、其の語と他の語との關係を現はし、又はその意義を達せしむ。韓語に於ては<sup>ㄷ</sup>と稱す。

助詞に五種あり。第一種助詞は專ら體言、及形容詞、動詞の名詞態にのみ附屬し。第二種助詞は體言、用言何れにも附屬し。第三種助詞は用言にのみ附屬し。第四種助詞は用言と用言との中間、若くは體言、用言と助詞との中間、又は助詞と助詞との中間に立ちて之を連結し。第五種は二つ以上の助詞が助くる詞を上下に挟みて而かも一つの意味を構成する助詞なり。

第二節

體言、及形容詞動詞の名詞態にのみ

附屬する助詞、即天仁乎波

가, 이(가)

가及いは共に日語の天仁乎波「가」に當り、主格を表はす。支音なき語には「가」を用ひ、支音ある語には「이」を用ふ。

나히가, 만흐오(齡が多イデス)

사람이, 만흐오(人が多イデス)

가及いは日本語の「가」と異なる使用法と見做すべきは、動詞及助動詞(되)ナル、又ハ出來ル「가」が下に來る時は、「니」の天仁乎波は排斥して必ず之を使用すべきこと是なり。

先生이 되엿소

(先生ニナリマシタ)

그사람에게, 養子가 되엿소(アノ人ノ養子ニナリマシタ)

の如し。されども是の場合に天仁乎波を全く略するも可なり。

는, 은(ハ)

는, 은は天仁乎波「ハ」に當る。支音なき語には「는」, 支音ある語には「은」を用ふ。

가기는 실코, 아니가기는 앓가읍고.

나는 아니가오, 그사람은 몰나도.

는은の使用法及意味は日語「ハ」と全く同じ。

의(ノ)

의は天仁乎波「ノ」に當り、所有を表はす。

의は天仁乎波「ノ」に當れども、日語の「ノ」とは違ひ、屢々之を省略され、口語に在りては省略するを寧ろ普通となす。例へば

더사람의 집을 더사람집

李判書의를 아들을 李判書아들

말의 고기를 말고기

といふが如し。

를(을)카)

를(을)는天仁乎波(ヲ)に當り、賓格を表はす。支音なき語には를(을)支音ある語には을(을)を使用す。

크기를, 또 호어호오。

음을, 시려호오。

日語天仁乎波(ヲ)と異なる使用法は、天仁乎波(ニ)を用ふべき筈なる타(乘ル)。(맞나逢フ)。(當(當ル)等の動詞及(ヲ)を用ふべき筈なる副詞(爲メ)等には必ず를(을)を用ふることなりとす。即ち

나, 오날은, 말을 타고 왔소 (馬ニ騎テ來タ)

그 사람이 人力車를 타고 간다 (人力車ニ乘ッテ行ク)

개가, 고양이를, 맞났소 (犬ガ猫ニ逢ッタ)

來日그 사람을, 맞날레요 (アノ人ニ逢ウ積リデス)

の如し。

是の他には、凡て日語天仁乎波(ヲ)と同じく使用さる。

에, 에게(二)

에, 에게は天仁乎波(ニ)に當り、與格を表はす。

에, 에게は同意義に用ひらるれども、에は又天仁乎波(へ)の場合に使用さるゝとあり。又口語にありては、에より寧ろ에게を普通に用ふ。

뜻이, 땅에 떨어진다 (地ニ落ッ)

나에게 듀시오 (私ニ下サイ)

그 사람에게, 갔소

釜山에, 갔소

而して

압에(해)가

山에 올라가봅시다

と云へば「前へ行ケ」「山へ上ッテ見マセウ」の意味にして、예は「へ」に當る此處には예게とは云ふを得ず。

又何々ニと頗る「ニ」を緊切に云はんとする時は決して예は使用せず。例へば

내가 그 사람에게 웃음을 맞으엿소 (私ガ彼ニ笑ハレタ)

당신에게 밋겻소 (アナタニ委シマシタ)

等の如き重きを「ニ」に措く場合には、예と云へば誤なり。要するに예は예게より輕き弱き意味なること注意すべし。

예게を或は의게と書く人あり

안테(ニ、許ニ、カラ)

안테は예게と同じく、「ニ」の天仁乎波なり。され共예게は生物無生物共に使用さるれ共、안테は生物に限り使用さる。されば안테は生物

に使用せらるゝ部分の예게に同じといふを得べし。且つ예게は或場合には예と同じく使用され共、안테は예の代りに使用されて輕き意味たること能はず。例に就いて自得すべし。

나안테듀시오

당신안테웃음을바닷소

개안테물나엿쇼

어머니안테마젓쇼

예、의게、안테は、要するに動作の移り互る所を示すものなり。

에서、안테서(カラ又はデ)

에서及안테서は共に、「ニ」の意味なる예、及ひ안테に「テ」の意味なる서의連結して構成せる助詞にして、「ニテ」「カラ」「데」の意味を表はす。

宅에서、電話가왔소 (オ宅カラ)

그사람안테서、밖으엿소(アノ人カラ受ケマシタ)

그商店에서, 샀소

(アノ店デ買ヒマシタ)

쌍에서, 낫소

(地カラ出マシタ)

길에서, 들었소

(道デ聞キマシタ)

안테서는「許ニテ」「許カラ」の意味にして生物にのみ使用せらる。여기, 거기, 더기, 어디는에서의예を省略して여기서, 거기서, 더기서, 어디서と云ふ。

여기서, 보았소 (此處デ見マシタ)

거기서, 갓가우오(코, 카라近イデス)

の如し。

로, 으로, (ニ, 及ト, 及デ)

로, 으로는예と同じく輕き意味の「ニ」及「行クト定メル」, 「花ト見ル」の如き指定の意味の「ト」及「筆デ書テ」, 「汽車デ行ク」の如き依ての意味を表はす「デ」に使用せらるゝ。天仁乎波なり。支音なき語には로, 支音

ある語には으로となる。例へば

釜山으로, 가요 (釜山ニ行ク)

뿔이, 쌍으로, 썬러졌소(地ニ落ナマシタ)

앞으로, 가 (前ニ行ケ)

日本으로, 드러갔소 (日本ニ渡行シマシタ)

の如し。而して예又は의게よりは一層普通に使用さる。

會場을, 上野로, 變히소(上野ト變ヘマシタ)

가기로, 作定히소 (行クコト, 定メマシタ)

눈을, 뿔으로, 보았소 (雪ヲ花ト見マシタ)

指定の「ト」の外は、決して他の場合の「ト」に使用されず。「デ」に使用さるゝ例は

붓으로, 쓴다 (筆デ書ク)

자동차로, 갔소 (汽車デ行キマシタ)

試驗으로, 밋부어 요(試驗デ忙シイデス)

더러(ニ向テ)

더러는話しをなし, 問をなす場合に限り, 「ニ向テ」の意味に用ひらる。而してこの場合に, 예개及안대를用ふるも差支へなし。

날더러무릿소 (私ニ問ヒマシタ)

그이더러일릿소 (ソノ人ニ申シマシタ)

下人더러命令히소(下人ニ命令シマシタ)

와, 과, 하고(ト)

와, 과, 하고는, 아레トハ違フ, 「ソレトハ悪イ」の比較の「ト」, 「友達ト遊ブ, 「君ト行カウ」の「ト」共ニの意味なる「ト」, 「コレト, 「ソ레ト, 「아레ト, 「私ト, 「君ト, 「才前ト」の物事を並列する「ト」に當る天仁乎波なり。

와는支音なき語に付き, 과는支音ある語に附く。하고と, 과, 와는使用法全く區別なし。

더것과는, 달라요 (アレトハ違ヒマス)

그것하고는, 안되였다(ソレトハ悪ルカッタ)

親舊와가지, 노랏소 (友達ト一所ニ遊ビマシタ)(又ハ하고)

당신과,同行하겠소 (アナタト同行シマセウ)(又ハ하고)

이것하고, 그것하고, 더것하고 (又ハ과)

나와, 자네와, 너와 (又ハ하고)

며, 이며(ヤ, ダノ)

며는體言を重ね云ふ場合に用ひらる「ヤ」, 「ダノ」に當る天仁乎波なり。支音ある語には이며となる。

우리學校에는, 算術이며, 圖畫며, 理科며, 體操며, 여러가지課程이만히잇소。

산行이며, 散步며, 테니스며, 運動들을다히소。

보다, 보달(ヨリ)



보다, 보담は「コレヨリ善イ」、「私ヨリ上手」と比較の意味を表はす天仁乎波「ヨリ」に當る。

이것보담(보다)더것이나아요(コレヨリアレ가善イ데스)

나가는것보다, 집에가만히잇는것이요호어(出ルヨリ内ニ居ル가

好キ다)

샤지, 샤장(마데)

샤지, 샤장은「此處マデ行ク」、「彼マデ話シタ」と至り及ぶ意味を表はす天仁乎波「마데」に相當す。

우리집샤지, 오시오 (内迄オ出ナサイ)

그사람샤장, 다일렀소 (ソノ人迄モ皆話シマシタ)

毎日十時샤지는, 工夫히요十時迄ハ勉強シ마스)

라야, 이라야(나레바코소)

라야, 이라야は「私ナレ바코ソ」、「川ナレ바코ソ」と特に一つを取出て

いふ「나레바코소」の天仁乎波なり。

支音なき語には「라야」支音ある語には「이라야」を用ふ。

나라야, 그술에醉사지안는다(私ナレ바코ソ其酒ニ醉ハナイ)

말이러야,速히간다 (馬ナレ바코ソ速ク行ク)

만(다케, 사へ)

만は「私다케殘ル」、「一ッ다케クレ」の「다케」及「風사へ吹イ타라大變다」、「行キサへシ타라善イ」の如く矢張「다케」に近き「사へ」に相當する天仁乎波なり。

나만, 남엇다 (私丈ケ殘ッ다)

그것, 하나만두 (ソレ一ッ丈クレ)

바람만, 불면, 큰일이다 (風사へ吹イ타라大變다)

가기만, 힘스면, 關係치안아요(行キサへ스레바構ハン)

前の「라야」に「만」を添へて、猶一層「코소」の意味を強くすることを得。

그 사람이 라야만 잘히지, 다른 사람이면, 到底히 못된다

(ソノ人ナレバコソ善クヤッタノサ、外ノ人デハ到底出來ン)  
라도, 이라도 (デモ, サヘ)

라도는 「私デモヤル」, 「犬デモ分ル」의 「デ모」. 「彼ノ人ニサヘ判ッタ」, 「馬デ  
サヘ超エル」의 「サヘ」에相當する天仁乎波なり. 支音なき語には라도  
ある語には 이라도를用ふ.

나라도, 되겟네 (私デモ出來ルワイ)

개라도, 알지 (犬デモ判ルサ)

그 사람이 라도, 다알았소 (アノ人ニサヘ判ッタ)

도(모)

도는 「内ニモナイ」, 「私モ知ラナイ」의如く, 亦の意を表はす天仁乎波  
なり.

나도, 알지 못하오 (私モ知リマセン)

우리집에도, 업소 (内ニモアリマセン)

나, 이나 (デ모, 모)

나는 「是デモ見ナサイ」, 「四年モ一所ニ居タ」의如く, 「ナ」よりも輕く或  
事柄をなすことを命令し, 誘引し, 若くは談話するに用ひらる, 天  
仁乎波なり. 支音なき語には나, ある語には 이나를使用す.

이야기나하시요 (話デモナサイ)

나는, 꽃도 라올레니, 담배나 먹으시고, 기뻐리오

(煙草デモ喫ンデ待チナサイ)

四年이나 갖지 잇서는되, 나 갖소 (四年モ一所ニ居タノニ)

처럼 (ノ様ニ)

처럼は 「私ノ様ニナサイ」, 「ソノ様ニ出來ルカ」의如く比較の意味を  
表はす天仁乎波なり.

나처럼, 잘할수가잇소 (私ノ様ニ上手ニ出來マスマイ)

그처럼, 어려운 것은 업소(ソノ様ニ難カシイノハアリマセン)라고(ト)

라고は「某ト云フ人」、「馬ト云フ動物」、「何ト云フノカ」の如く主格たる體言を説明する意味の助詞にして「ト」に當る。支音ある語には이라고となる。

말이라고하는, 動物은 (馬ト云フ動物ハ)

日本이라고하는, 나라는 (日本ト云フ國ハ)

무어라고, 히요 (何ト云ヒマスノカ)

라고하는を簡約して, 라는と云ふも可なり。

第三節 體言及形容詞、動詞の名詞態に附

屬し又用言にも附屬する助詞

體言及形容詞、動詞の名詞態及用言に附屬する助詞は、用言に附屬

しては時の關係を表はすを得。

야, 이야, 야말로, 이야말로(코ッ)

야は「私コッ出來マセウ」、「行キテコソヨカロウ」の如く、或は「私ガ出來ナカラウカ」、「アノ人ハ勿論出來マセウ」、「アノ人ガ行カンコトガアリマシヨウカ」の如く、普通の「ハ」ガより一層意味強く事物を標出するに用ふ。殊に야말로は야よりも強き標示を表はし正に日語の「コッ」に當る。

支音なき體言には야, 야말로と云ひ。ある體言には이야, 이야말로と云ふ。而して動詞、形容詞には活用形より連續して, 히야, 보아야, 피어야と云ふ。

나야, 吳理가잇소(私ガ出來ナイ譯ガアリマセウカ)

그사름이야, 셋소(アノ人コッスルダラ)

나야, 無論알지요 (私ハ勿論分ルサ)

당신도가야할것소(アナタモ行ッテユソヨロシ即行カチバナリマセン)  
特に一つ丈け標出する意味を加へん爲に야に만을添ふることあり例へば

그사람이야만잘할것소

당신이드가야만할것소

당신을生覺히야만,曲情할것이요。

の如し而して야말로は야만より少し緊切を缺く

당신들이야말로,希望이만은時代요(アナタ方ユソ希望多キ時代

데스)

말이야말로,그리速할수가잇섯지 (馬ナリヤユソソナニ早カッ

타데세우)

가보아야말로,자미를알것소(行ッテ見テユソ趣味가判ルダ로우)

滋養分마니먹어야말로,살이찌것소(滋養分ヲ食テユソ肥エル데

세우)

야及야말로は,時を表はすには,用言終止態の現在及過去に附屬すること,히야,히서야,가야,갓서야の如し。

가,나,느냐(カ,疑問助詞)

가,나,느냐가疑問助詞なることは既に屢々之を述べたり。復た説明を反復する必要なからん。

但し注意することは,느냐は相手方に對して直接に疑問詞として使用せんには,我より卑しき者ならざるべからざるは勿論なれども,間接に疑問詞として使用する際には,一切の場合に通用すべし。例へば,「アノ人가私ニ面白イ카ト問ヒ마신타」なる語を父の前に云ふ時にも長官の前にて,

그사람이,날더러,滋味잇느냐고,무릎습니다

と云ひて差支なし。又我の親しき長者가他人と會話しつゝあるに、

相手の疑問の語を了解し得ざる場合に、我れ相手に代りて、其の意味を傳達するにも「**느냐**」を使ひて差支なし。例へば

來日은 눈이 오겠느냐 란 말삼이오

(明日ハ雪ガ降ルカト云フオ話シデス)

の如し。

면(ナラバ)

면は未然の助詞なることは既に動詞、形容詞の條下に述べたり。體言にも同じく「**ナラバ**」の意味に用ひられ、支音ある語には**이면**となる。

근진된 거든(ナラバ)

근진된 거든は면と其の意味相同じ。支音ある體言には**일진된 거든**となる。

날진된 거든(トモ) 容恕하시겠소(私ナラ바許シナサルカ)

말일진된(이) 거든(トモ) 타고가겠소(馬ナラ바騎ツテ行キマセウ)

用言には、現在には語根、過去には過去終止態、未來には未來終止態より續く。

비가 올진된(오) 거든(トモ) 아니가요(雨ガ降ルナラ行カナイ)

비가 왔슬진된(왔) 거든(トモ) 가지마라(雨ガ降ッ따라往クナ)

비가 오겠슬진된(오) 겠 거든(トモ) 雨傘 가져가시요

(雨ガ降ルダ라우ナ라傘ヲ持ッテ行キナ사이)

거든は又句の終に附きて、**니**、**니가**と等しく、故に「の意味を表はし、用言終止態に連接して時を表はす。

쉬죽을 사람이 거든 (直ニ死ヌ人ダカラ)

그 사람이 벌써 갔 거든(アノ人ガ最早往ッ따카라)

비가 오 거든 (雨ガ降ルカラ)

든지(デモ、ナリ)

든지は「コレナリ、ソレナリ、買テ來イ」私デモ、君デモ、構フマイ」の如く、事物を並置して其の何れかを撰ばしめ、若くは其の何れにても可なることを表はす助詞なり。

이것든지, 그것든지, 사듀시오(コレナリソレナリ買ッテ下サイ)

工夫든지, 運動이든지, 마음되로오

(勉強デモ運動デモ勝手ニナサイ)

당신이, 가든지, 아니가든지, 나는相關업소

(アナタが行ッテモ行カナクテモ私ハ構ヒマセン)

짜지든지, 빗짜지든지, 過히差別이업소

(安クナッテモ高クナッテモ大差ハナイ)

支音ある體言には、이든지となる。

現在は直ちに語根に連續し、過去は終止態の過去、未來は終止態の未來形より連續すること、가든지(現)갓든지(過)가깃든지(未來)の如し。

나, 거나(デモ、ナリ)

나及거나は든지と全く同じく使用さる。

이거나, 그거나, 사듀시오

나거나, 그사람이거나, 마치한가지요.

工夫나, 運動이나, 마음대로오.

당신이, 가나, 아니가나, 相關이업소(又ハ가거나, 아니가거나)

짜지나, 빗사지나, 過히差別이업소(又ハ짜지거나, 빗사지거나)

過去、未來共に終止態より連續す。가나, 가거나(現)。갓스나, 갓거나(過)。

가갓스나, 가갓거나(未)。

나, 니가(ダカラ、タノデ、カラ、ノデ)

나, 니가는「私ダカラ善イ」私ダノデ構ハン」行クカラ善イ」行クノデ

悲シイ」の如く、或事柄が他の事柄の原因となることを示す意味を表はす。されども體言には重に니가を用ふ。支音ある體言には이니、

이니가となる。

나니가曲情마시요

(私ダカラ心配ナサルナ)

亞刺比亞말이니가키가크요

(亞刺比亞馬ダノデ長ガ高イ)

山이높흐니(又ハ)니가구름이세오(山ガ高イノデ雲ガ鎖シマス)

날이흐렷스니가(又ハ)니또비가오겟소

(天氣ガ曇ッタカラ又雨ガ降リマセウ)

用言終止態に續いて時を表はすこと나と同じ。

길넌,故로(カラ)

길넌及故로는,니又は니가と等しく「カラ」の意味を表はす助動詞なり。故로는體言に附くには「故로」となり。支音ある體言には이길넌,인故로となる。

그사름이길넌(인故로)이런말싸자히소.

(アノ人ダカラユンナ話迄シマシタ)

主人이업섯길넌(업든故로)나도도러왔소.

(主人ガ居ナカッタカラ私モ歸リマシタ)

時を表はすには,길넌は終止態に連續し,故로는連體態より續く。  
만콤程(位)

만콤は「私程上手ナ人」,「ア」位上手ナ人,「行ク程」ニナリマシタの如く,丁度其の程度の意味を表はす助詞なり。體言の支音ある語に續くには이만콤となる。

그만콤잘싸면,너너히요(ソレ位上手ニ出來レバ十分デス)

더기집만콤,입분이는,만치아나요(アノ女程立派ナ方ハ澤山ナイデス)

櫻꽃이,인제볼만콤되엿소(櫻ノ花ガ今見ル程ニナリマシタ)

먹을만콤,먹어야지(丁度食フ程食ベルガエイ即適當ニ食ベルガエイ)

먹일만콤히라 (食ハセル程ニ作レ)

만콤は用言の連體態より續いて時を表はす。

し<sup>줄</sup>줄(코ト、ダ)

し<sup>줄</sup>줄は元來筋(줄)の義より轉化せるものにして「私ダト思フ」行クコト、思フの如く、體言又は用言を確に指定する所の「ダ」又は「コト」に當る助詞なり。而して體言にし<sup>줄</sup>及인<sup>줄</sup>을を取り、用言には<sup>줄</sup>을使用し、更に<sup>로</sup>を添へて<sup>줄로</sup>とも云ふ。

나는 말인 줄(줄로)도 모(말)았소(私ハ馬ダト思ヒマシタ)

빈 줄로 알었소 (雨ダト思ヒマシタ)

눈이 오는 줄로 알었소 (雪ガ降ルコト、思ヒマシタ)

갈 줄 생겼소오 (行クダロウコト、考ヘマス)

말 탈 줄 몰오오 (馬ニ騎ルコトヲ知リマセン)

時を表はすには用言連體態に連續す。

뿐(ノミ、許リ)

뿐は만と同じく「ノミ」許リの意味を表はす助詞なり。されども만は

用言に用ひられざるに、뿐は體言にも用言にも共用さる。但し用言には己<sup>뿐</sup>となりて己より接續す。

나 뿐이요(私丈デス)

그사람 뿐 아니라, 나도 가겠소 (ソノ人デナク私モ行キマセウ)

말할 것 뿐이요, 實相은 알스 가 업소(言ッ丈實際ハ判リマセン)

비가 올 뿐이요(雨ガ降ル丈ケデス)

뿐は用言の終止態より連續して「갈<sup>뿐</sup>」<sup>것</sup>을<sup>뿐</sup>、<sup>가</sup>겠<sup>뿐</sup>、<sup>가</sup>겠<sup>뿐</sup>となりて各の時を表はす。

는지, 는지(カ)

는지, 는지는疑問の意味を表はす「カ」の助詞にして、「誰ダカ分ラヌ」、「雨カ雪カ降ッテ居ル」、「降テるか降テナイカ出テ見ヨウ」の如く。對象たる如き者多くして眞の對象が何れなるか不明なるを表はす。し<sup>지</sup>は支音ある體言には인지となり。는<sup>지</sup>は用言に附屬す。



누군지, 알 수가 업소

(誰ダカ判ラナイデス)

櫻꽃인지, 복숭화꽃인지, 잘 피었소(櫻ノ花カ桃ノ花カヨク開キマシタ)  
비가 오는지, 아니 오는지, 나가봅시다

(雨ガ降テルカ降テナイカ出テ見マセウ)

來일은, 學校로 가겠는지, 아니 가겠는지, 물으겟소

(明日ハ學校ヘ行カウカ行クマイカ分リマセン)

는지는用言의終止態に連續して, 時を表はすこと, 가는지(現)가는지  
(過)가겠는지(未)의如し.

시데, 는데, 되(노니, 다가)

시데, 는데, 되(노니)의意味を表はし, 「私ダノニ, 「行クノニ」의如く, 然  
ルニ何々」と反語に連絡し, 又は反語を含む助詞なり. 데는體言には  
시데, 用言には는데を用ひ, 되(노니)는兩品詞に共通す. 又支音ある體言に  
는인데, 이되(노니)となる.

말인데(又)하이되, 羊이라고 할 사람이 잇소.

(馬ダノニ羊ト云ッタ人ガアル)

優等生은李家인데(又)하이되 (優等生ハ李氏ダカ)

時を表はすには用言の終止態變化に續くこと, 가는데, 갖는데, 가겠  
는데, 가되, 갖스되, 가겠스되의如し.

그사람, 도오겟는데, 나가사요(アノ人モ來ヤウノニ往キナサイマスカ)

雨傘이업소, 비가왔는데(傘ガナイ데스카) 雨ガ降ッテ來タノニ)

비가오되, 雨傘아나가져왔소(雨ガ降ルノニ雨傘ハ持テ來マセンデシタ)

시즉(나레바)

시즉(나레바)は然らば則ちの則즉にして, 既然態の助詞なることは既に用言  
の條下に述べたり. 體言にも同じく用ひられ, 支音ある體言には인  
즉となる.

난즉, 그러케아니히요(私ナ레바サウハシマセン)

말인즉, 타겟소

(馬ナレバ騎リマセウ)

し 즉 に又 손을添へてし 즉 손と云ふも可なり。

마는(케레드모)

마는, 고니와는「私ダケレドモ」, 「行クケレドモ」の「케레드모」に當る助詞なり。必ず助詞지를體言又は用言と我との間に置いて連續し支音ある體言には이지를置いて連續す。

그사람이지마는, 아니라고하요

(アノ人ダケレドモ, サウデナイト云ヒマス)

말이지마는, 나는달줄몰으오(馬ダ케레드모私ハ騎ルコトヲ知ラندス)

나도가지마는, 暫間잇슬뿐이요私モ行ク가一寸居ル丈デス)

마는は用言の終止態より連續して時を表はすこと가지마는(現), 갓지마는(過), 가갓지마는(未)の如し。

고니와(다가, 가)

고니와는體言及用言に附屬して、「私モ私다가君モ君다」、「싸우云へ바善イ가斯ウ云フカラ惡イ」、「私ハ來타가아ノ人ハ未다來ヌ」の如く、「다가」又は「가」の意味を表はす。而して支音ある體言には이고니와となる。

나도, 나고니와, 그사람도그사람이다.

그러케히면, 도호고니와, 이러케사니가아니되오.

나는왔고니와, 親舊는아니왔소.

時を表はすには、終止態より續くこと, 가고니와「갓고니와」, 가갓고니와「의如し」。

第四節 連接助詞

助詞지及고は、其自身には何等の意味をも表さずして、單に用言の間に、若くは用言と助詞の間に挿まれて、之を連接せしむるの用を

なすことあり。この場合の<sup>지</sup>及<sup>고</sup>を連接助詞となす。例へば形容詞及動詞の否定及禁止に於て、形容詞又は動詞と<sup>아니</sup>及<sup>아오</sup>との連接の媒介は、助詞<sup>지</sup>を以てし、希望法に在りて<sup>고</sup>止すといふが如し。此の他<sup>가</sup>지<sup>마는</sup>、<sup>것</sup>지<sup>마는</sup>、の如く用言と助詞との連接の媒介をなし。自身何等の意味を有せずして單に連接の用をなす之を連接助詞と命名す。但し連接助詞を用ふる場合は、形容詞及動詞の否定及禁止と、助詞<sup>마는</sup>を取る場合と意義なき<sup>고</sup>なりとす。爾餘の<sup>지</sup>及<sup>고</sup>は皆別種なりと知るべし。

第五節 用言にのみ附く助詞

도(テモ、ケレドモ、ガ)

도は「來テモ駄目ダ」、「行タケレドモ遅イ」の如く雖の意味を表はす助詞なり。

그런 사람은 있어서도, 쓸데가 없다 (アンナ人ハ在テモ仕様ガナイ)  
내가 갖서도,所用이 없섯소 (私ガ行ッタケドモ用ガナカッタ)  
氣運이 되리 못하시겠서도, 와유시요

(御氣分ハヨクハアリマスマイケレドモ御出下サイ)

도は現在に於て用言の活用形に附屬し。過去未來には終止態の其より續く。와도(現)와서도(過), 오기서도(未)。나及거나は도와同意味にも使用さる例へば

가도, 아니가도關係치안다  
가나, 아니가나,關係치안다  
가거나, 아니가거나,關係치안다  
の如し。

다가(タガ、テカケテ)

다가は「行ッタガ來タ」、「降ッテ止ンダ」、「行ッテ來タ」、「降リカケテ止ンダ」の

如く、過去に「タガ」、「テ」現在に「カケテ」となりて、過去の動作と今の動作とを結付くる助詞なり。

거기 갔다가, 못 갔소 (アソコニ往ッタガ逢ハレナカッタ)  
거기가 다가, 왔소 (アソコニ往キカケテ來タ)

비가 왔다가, 쉬었소 (雨ガ降ッテ, 直ニ已ンダ)  
비가 오다가, 쉬었소 (雨ガ降リカケテ, 直ニ已ンダ)

면서 (ナガラ)

면서は、「茶ヲ飲ミ乍ラ話ス」、「本ヲ讀ミナガラ行ク」の如く、一動作を爲しつゝ、同時に他の動作を爲すを表はす助詞なり。

차를 먹으며, 연서, 이야기를 흡사다

책을 보면서, 간다

면서は現在一形あるのみにして、動詞の語根に連續するを法とす。  
면서도 (ナガラモ)

면서도는「ナガラ」に「モ」の連續したる助詞なり。

그 사람은, 잘 알면서, 도, 물는다 고, 희요

(アノ人ハ判テ居リ乍ラモ判ラント云ヒマス)

나는, 請帖, 받으면서, 도, 못 갔소

(私ハ招待狀ヲ受ケナガラモ行ケナカッタデス)

면서도는用言の語根より直ちに連續す。

것을 (ノヲ、ノニ)

것을は其の字の示す如く、것(ノ)을(ヲ)「ノヲ」の助詞なり。

다, 간 것을, 자네 혼자, 왜, 아 니 가 나 (皆ガ行クノヲ何故君丈ケ行カナイカ)

불, 느, 지, 안는, 것을, 왔소 (呼バナイノヲ來マシタ)

것을は用言の連體態に連續して時を表はす。

되 (モ、ノ、)

되, 是, 「行クモノ、直クニ歸ル」、「降ルモノ、少シダラウ」の「モノ、」の

如く、乖離したる意味の事柄を連結せしむる助詞なり。

나가기는하되, 곳도러오겟소(行キハスルガ歸ルダラウ)

비는오되, 오히는아니올레야(雨ハ降ルガ澤山ハ降ルマイ)

時を表はすには用言終止態よりすること、오되, 왔스되, 오겟스되の如し。

드니, 스니(處ガ)

드니, 스니は「彼ノ人ノ内へ行ッタ處ガ居ナカッタ」「雨ダト思ッテタ處ガ晴レタ」の「處ガ」の如く過去の推量と違ひたる現在の事實を結合する助詞なり。

그사름을, 正直호사름으로만알엇드니(又ハ스니), 大段히들녘소

(アノ人ヲ正直ナ人間ト許リ思ッテマシタ處が大違ヒデシタ)

그집으로갓드니(又ハ스니), 업섯소(アノ内ニ行ッタガナカッタ)

도록(様ニ)

도록は「善イ様ニ」「行ク様ニ」の如く、用言に附屬して其の用言の通りにする意味を表はす助詞なり。

똥도록, 히듀시오 (善イ様ニシテ下サイ)

가게되도록, 멘드렸소(行ケル様ニシマシタ)

죽도록, 씨렸소 (死ヌ様ニ撲ケマシタ)

도럭は用言の語根に連結す。

도럭と同じく게서리をも使用す。가게서리, 보게서리의如し。されどもこれは地方語なり。

고, 며(タリ)

고, 며が用言の中止態を構成する助詞なることは既に反復之を述べたり。

저(テ)

저は「行テ見ル」「話シテ見ル」の「テ」に當る助詞にして、動詞を連続せ

しむる作用あり。又上の動詞に幾分過去の意味を與ふ。

나가서 본다 (出行ッテ見ル)

써서 주었소 (書イテヤリマシタ)

서는動詞活用形に連結す。

서(ノデ)

서は特に形容詞及び形容動詞及存在詞업소,잇소에附屬して나と同じく「ノデ」「カラ」の意味を表はす。

山이 높혀서, 넘어갈수가 없다 (山が高イノデ越エルコトが出来ナイ)

物價가 빛사져서, 살수가 없다 (物價が高クナッテ生活が困難ダ)

돈이 없어서, 살수가 있다 (金がナイカラ買ハレ様カ)

혼자잇서서, 미우심심히요 (獨リデ居ルノデ大變淋シイ데스)

길에, 길에(序ニ)

길에, 기리는「行ク序」「見ル序」の序に當る助詞なり、動詞の連體態よ

り連續す。

學校로 가는 길에(又ハ길에)暫間들노오

(學校へ行ク序ニ一寸寄ッテクレ)

鐘路로 간 길에(又ハ길에)사왓소(鐘路ニ行ッ따序ニ買テ來マシタ)

(길에, 길에は接續に用ひらるゝ助詞なれば又接續詞に入るゝも可なり)

자, 마자(否ヤ)

자, 마자는「行クヤ否ヤ」「來ルヤ否ヤ」の「否ヤ」に當る助詞なり。

집으로, 오자, 마자, 비오기始作했소(内ニ來ルヤ否ヤ雨が降り始メマシタ)

당신의 편지를, 보자, 마자, 答狀했소

(貴下ノ手紙ヲ見ルヤ否ヤ返事シマシタ)

자, 마자는動詞語根に連續す。

망정, 지언정(寧ロ……シマシヨウガ)

망정, 지언정은接續詞に於て説明せる如く、「寧ロ……シマセウ」の意

味を表はす助詞なり、連體態、未來形より續く。

散歩하라 갈 망정(又) 하지 언정(運動은 아니 하 요)

漢文은 불 지 언정(又) 망정(詩는 아니 지 오)

口, 기(코ト, ノ)

口, 음及 기는、用言の語根に附屬して名詞態を作らしむる助詞なる  
ことは、既に述べたり。

以上述べたる助詞の中다가, 면, 거든, 겠진 된, 故로, 길에, 니, 나가, 김에, 고,  
서, 데, 서, 든지, 족, 것을, 드니, 면서, 망정等は常に語と語とを、又は句  
と句とを連續せしむる意味を有するが故に、又接續助詞と云ふも  
可なり。

第六節 語の前後に離して置かるゝ助詞

기는……되(又)하는 데, 나, 도(……스르코トハ……스르가)

면……는뒤로  
……고수륙

(……스레바……스르程)

等の云ひ表はし方は、常に其中間に體言か用言を挿みて以て複雑  
なる意味を表はす。卽ち

기는……되(又)하는 데, 나, 도(……스르코トハ……스르가)  
事柄を甚だ重く表はす助詞なり。(기의代りに體言をも用ふ)

上の助詞는は常に不變にして、下の助詞を用言の終止態に連結せ  
しめて時の變化を表はす。

그이에 깨, 말히 보기는, 하 보겠스나(又)해서, 도, 겠는데, 겠스되, 내 말을  
들을는 지, 아 지 못스오

(話シテ見ル事ハ話マセウガ私ノ語ヲ聽クカ聽カンカ判リマ  
セン)

비가 오기는, 오는데, 쉬기 겠소

(雨ガ降ルコトハ降ルガ直ニ霽レルデセウ)

그사름을 만나기는 맞았는데, 그이야기는 못히다

(アノ人ニ逢フコトハ逢ッダガソノ話ハ出來ナカッタ)

면……. 己수록(는) 디로)は動作の進に従て其の結果が如何なるかを云ひ表はす助詞なり。上の면は用言の語根に連接し、下の수록は用言連體態未來、디로は現在に連續す。

꽃이입부면, 입을수록, 쪼러지는 것이앗가우오(又ハ입분디모)

(花ガ美シケレバ美シイ程落ナルノガ惜シイデス)

卽今으로브러, 날이 지니면, 지낼수록, 싹싹히짓깃소(又ハ지는디로)

(コレカラ日ガ立テバ立ッ程暖ニナリマシセウ)

昨年은, 일을經營하면, 經營는 디로(又ハ己스록)도리여失敗히소

(去年ハ仕事ナスレバスル程却テ失敗シマシタ)

### 第六編 文センテンスの組織

韓語に於て、說話者が種々の意味を發表する爲に、構成する文センテンスの組織法は、全く日語の其と相合す。從て西洋の文典を講ずる場合の如く、文センテンスに就て絮說するの要なし。是は徒らに山水を毎日目撃する者に其の山水を反復詳說するの愚なるのみ。されば此には文センテンスの各形を日韓兩様に列舉して、之を對照して其の組織の全く相符合するを知らしむるに止め、而して本章を以て韓語文典の結尾となさんと欲す。

例一、主語と説明のみの文。

鳥が鳴く。

시가운다。

馬が走る。



말이 다라난다.

山が、高い。

山이 높하다.

井戸が、深い。

우물이 깊하다.

例二、主語に指定語若くば獨立語が添はり説明語に客語ある文。

この小供が菓子を食ふ。

이 아히가菓子を먹는다.

あゝ、風が花を散らした。

아ゝ 바람이 꽃을 떨어시켰다.

例三、是等の主語に形容語、説明語に副詞語又は客語に形容語添はれる文。

この可愛らしい小供が、旨い菓子を、澤山食ふ。

이 착한 아히가 맛있는菓子を 만히 먹는다.

あゝ、あの、悪い風が、美しい花を、皆散らした。

아ゝ, 더 고약한 바람이, 아름다운 꽃을 다 떨어시켰다.

例四、主語が形容句を取り、説明語が副詞を取り、客語に形容詞を取り、又客語の外に助詞「に」の添はれる補語を有する文。

昨日、日本から歸つた友達が、私に、面白い本を色々くれた。

어제, 日本서 온, 親舊가, 내에게, 滋味있는 책을 여러가지 주었소.

賢き父が、兄と弟とに、珍らしい話を、澤山話しました。

어전에 미가, 兄과 아우에게, 奇異한 이야기를 마니 했소.

例五、説明語に客語なく唯だ補語のみ有る文。

兵士は、白い、長の高い、馬に騎つた。

병士은, 희고, 키가 큰, 말을 탔다.

あの人は、最早髪と髯の白い老人になった。  
더 사람은, 말서, 머리가 고슈염이 흰 늙은이가 되었다.

例六、一文中に主語が二つ以上ある文。

私の内の犬は、耳が、大層長い。  
우리 집의 귀가, 大段히 길어.

私の内の犬は、お宅の犬より、耳が、大層長い。  
우리 집의 귀는, 宅의 귀보담, 귀가 大段히 길으오.

あの内は、父も息子も、皆長けが大變高い。  
그 집은, 에미키고, 조식키고, 다, 키가 大段히 크다.

但し是等は二主格を合して一主格となすを得。  
即ち

私の内の、犬の耳が、大層長い。  
우리 집의 귀가, 大段히 길다.

私の内の犬の耳は、お宅の犬の耳より、大變長い。

우리 집의 귀는, 宅의 귀보담, 大段히 길어.

あの内は、父の長も、息子の長も、皆高い。

그 집은, 에미키키고, 조식의키고, 다, 크다.

例七、二つ以上の文が集まりて成せる文。

私は、猫が鶏を捕へて行くのを、屢々見た。

나는, 고양이 가, 닭을 잡아 가는 것을, 자주 보았다.

先生は、空から落ちる雨が、草木を養ふのだと教へた。

先生은, 空中에서, 떨어지는 비가, 草木을 길으는 것이라고 말씀

하셨다.

螺馬が、驢馬の鳴く様に、鳴いた。

螺馬가, 나귀가 우는 것과 같지, 울었다.

醫師は、この病氣は、到底治らないと云つたけれども、幸に回

復した。

醫員은 이病은到底히 못 낫는다고 하되 마는, 多幸히回復히소.  
我々は、酒と煙草とは、衛生上に害があるから、(酒と煙草を)禁  
ずるがよろしい。  
우리는, 술과 담배는, 衛生上에 害로운故로, (술과 담배를) 禁  
것이 妥소.

例八、明かに二つ以上の文を并列して成れる文。

この國は、山には草木茂り、海からは魚鹽が産する。  
이나라는, 山에는草木이 茂生하고, 바다에서는 물고기와, 食鹽  
이 盛긴다.  
新らしい學問は年々に起り、舊い藝は日に捨てらる。  
서로운學問은, 히마다 이러나고, 예로운才操는 날마다 버려  
진다.

一人の女が、道が險しく、草木が茂り、誰も通らぬ、山路を行く。  
홀기집이, 길이 險하고, 草木이 茂生하고, 아무도 아니단기는, 山  
길을 간다.

以上八條の例は、略ぼ文センゴクの凡ての場合を竭せるものなり。而して其  
の何れの場合にも、日韓兩體の組織は全然相等しきを見るべし。さ  
れば、吾人日本語を操ると全く同じ言語の排列順序を以て、少しの  
遲疑なく韓語を排列し行けば、即ち完全なる韓語を成すなり。是點  
は日韓兩國人が國語交換上相互の非常なる利益なりとす。

韓語文典終

明治四十二年六月二十日印刷  
明治四十二年六月廿三日發行

韓語文典附

定價金壹圓

著者 高橋亨

東京市日本橋區本町三丁目八番地

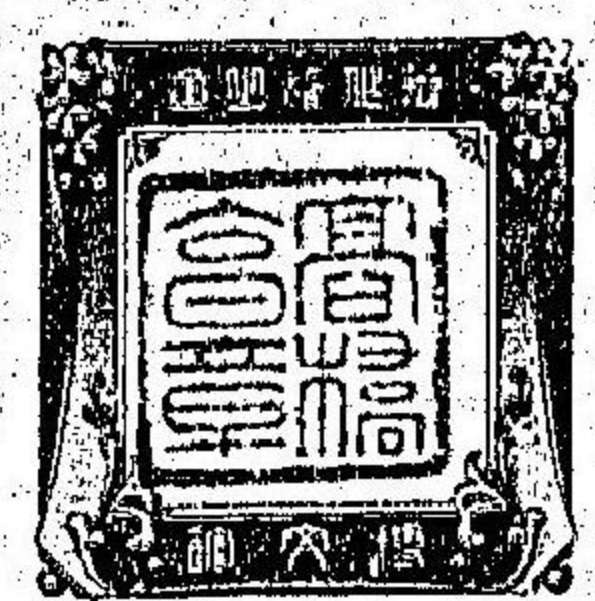
發行者 大橋新太郎

東京市京橋區築地三丁目十一番地

印刷者 野村宗十郎

東京市京橋區築地二丁目十七番地

印刷所 株式會社 東京築地活版製造所



發兌元

東京市日本橋區本町三丁目  
振替貯金口座東京二百四十番

博文館

博 文 館 發 行 外

- 文學士 畔柳都太郎君著 ▲英文典慣用法 全一冊中判上製 郵正價金六拾錢  
 紙數二百六十頁
- 石川辰之助君著 ▲初等英文典教科書 全一冊中判上製 郵正價金貳拾五錢  
 紙數百五十五頁
- 文學士 上村貞子君編 ▲新撰和英文典問答 全一冊小判上製 郵正價金貳拾錢  
 紙數二百二十四頁
- 文學士 畔柳都太郎君著 ▲邦語英文典 全一冊中判上製 郵正價金四錢  
 特製正價金四拾錢 郵稅金八錢
- 岡田市治君著 ▲英語異同辨 全一冊小判並製 郵正價金五拾錢  
 紙數四百頁
- 松田利七君著 ▲英語發音綴字學 全一冊中判上製 郵正價金參拾錢  
 紙數百七十頁
- 英語世界編輯部編 ▲四十二年度英語問題詳解 全一冊中判並製 郵正價金四拾錢  
 紙數二百二十四頁
- 岸本能武太君著 ▲英文實踐道德〔文部省檢定濟〕 全一冊中判上製 郵正價金參拾錢  
 紙數百二十七頁
- 青木昌吉君著 ▲實用獨逸文典 全一冊大判上製 郵正價金壹圓五拾錢  
 紙數四百八十八頁
- 同 君編 ▲邦語獨逸文典 全一冊中判上製 郵正價金壹圓五拾錢  
 特製正價金四拾錢 郵稅金八錢

國 語 書 類 目 錄

- 藤井憲君編 ▲新撰獨逸文典問答 全一冊小判上製 郵正價金貳拾錢  
 紙數二百二十六頁
- 文學士 杉谷泰山君編 ▲獨逸前置詞使用法 全一冊大判上製 郵正價金五拾錢  
 紙數百四十六頁
- 文學士 青木昌吉君編 ▲邦語獨逸文章論 全一冊中判上製 郵正價金四拾錢  
 特製正價金四拾錢 郵稅金八錢
- 文學士 松井知時君著 ▲佛蘭西文典 全二冊大判並製一冊金四拾錢 郵稅金八錢  
 九六〇頁 特製一冊金五拾錢 郵稅金拾錢
- 前田越嶺君著 ▲新式初等佛語獨習 全一冊中判並製 郵正價金四拾錢  
 紙數百八十頁
- 前田雪子著 ▲對譯佛蘭西文法 全一冊中判上製 郵正價金壹圓貳拾錢  
 紙數二百七十二頁
- 今村有隣君著 ▲佛蘭西文典 全一冊中判並製 郵正價金四拾錢  
 紙數五百五十四頁
- 文學士 福田富治君著 ▲現代支那語學 全一冊中判上製 郵正價金貳拾五錢  
 特製正價金四拾錢 郵稅金八錢
- 文學士 後藤朝太郎君著 ▲初等英語會話教科書 全一冊中判上製 郵正價金貳拾五錢  
 紙數百八十八頁
- 石川辰之助君著 ▲通俗英語案內 全一冊大判並製 郵正價金貳拾五錢  
 紙數三百十二頁
- 同 君著 ▲通俗英語案內 全一冊大判並製 郵正價金貳拾五錢  
 紙數三百十二頁

博 文 館 發 行 外

- 島田 弟 九君著 ▲**英應用會話指針** 紙全一册小判上製 正價金參拾錢
- 石川 文 吾君著 ▲**高等商用會話** 紙全一册中判上製 正價金五拾錢
- 勝部 國 臣君著 ▲**實用商業會話** 紙全一册小判上製 正價金參拾五錢
- 伊 藤 博士 ▲**英語商人會話必携** 紙全一册中判上製 正價金參拾五錢
- 齋藤 忠 三郎君著 ▲**實用英語商業會話** 紙全一册中判上製 正價金貳拾錢
- 齋藤 清 次郎君著 ▲**英禮式會話** 紙全一册小判上製 正價金貳拾錢
- 森 美 文君編 ▲**新英語會話作文問答** 紙全一册小判上製 正價金貳拾錢
- 稻垣 襄 之助君著 ▲**必携實用警察會話** 紙全一册小判上製 正價金四拾錢
- 藤川 東 太郎君著 ▲**實用露會話** 紙全一册洋裝小判 正價金五拾錢
- 西 海 枝 靜君著 ▲**實用滿韓土語案內** 紙全一册洋裝小判 正價金貳拾錢
- 陸軍參謀本部步兵大尉 ▲**實用滿韓土語案內** 紙全一册洋裝小判 正價金貳拾錢
- 平山 久 治君著 ▲**實用滿韓土語案內** 紙全一册洋裝小判 正價金貳拾錢

國 語 書 類 目 錄

- 遠藤 辨 二君著 ▲**實用英和商業文指針** 紙全一册中判上製 正價金四拾五錢
- 濱田 四 郎君著 ▲**新英語作文書取法** 紙全一册中判上製 正價金五拾錢
- 辻 宏 吉君著 ▲**新英語日用書簡文** 紙全一册中判並製 正價金八拾錢
- 同 君著 ▲**實用英和作文** 紙全一册中判並製 正價金參拾錢
- 島田 弟 九君著 ▲**日清往來尺牘** 紙全一册大判和裝 正價金參拾五錢
- 吳 泰 壽君著 ▲**評支那時文軌範** 紙全一册洋裝中判 正價金參拾五錢
- 青柳 篤 恒君著 ▲**學生用英和字典** 紙全一册小判上製 正價金壹圓參拾錢
- 島田 弟 九君著 ▲**學生用英語辭典** 紙全一册小判上製 正價金壹圓
- 同 君共著 ▲**學生用英和字典** 紙全一册小判上製 正價金八拾錢

博發 文 館行 漢 文 書 類

文學士

久保天 隨君著

▲新體漢文軌範

紙全一冊中判並製 郵正稅金參拾五錢

同

君著

▲文章軌範精義

紙全三冊大判和裝 郵一冊稅金四拾錢

小宮山綏介君講義

▲老子、吳子、孫子、列子講義

紙全一冊中判並製 郵正稅金貳拾五錢

太田淳軒君講義

▲莊子講義

紙全二冊中判並製 郵一冊稅金貳拾五錢

城井梅庵君講義

▲荀子講義

紙全二冊中判上製 郵一冊稅金貳拾五錢

內藤耻叟君講義

▲墨子文中子講義

紙全一冊中判並製 郵正稅金貳拾五錢

小宮山綏介君講義

▲韓非子講義

紙全二冊中判並製 郵正稅金貳拾五錢

內藤耻叟君講義

▲小學、孝經、忠經講義

紙全一冊中判並製 郵正稅金貳拾五錢

同

君講義

▲近思錄講義

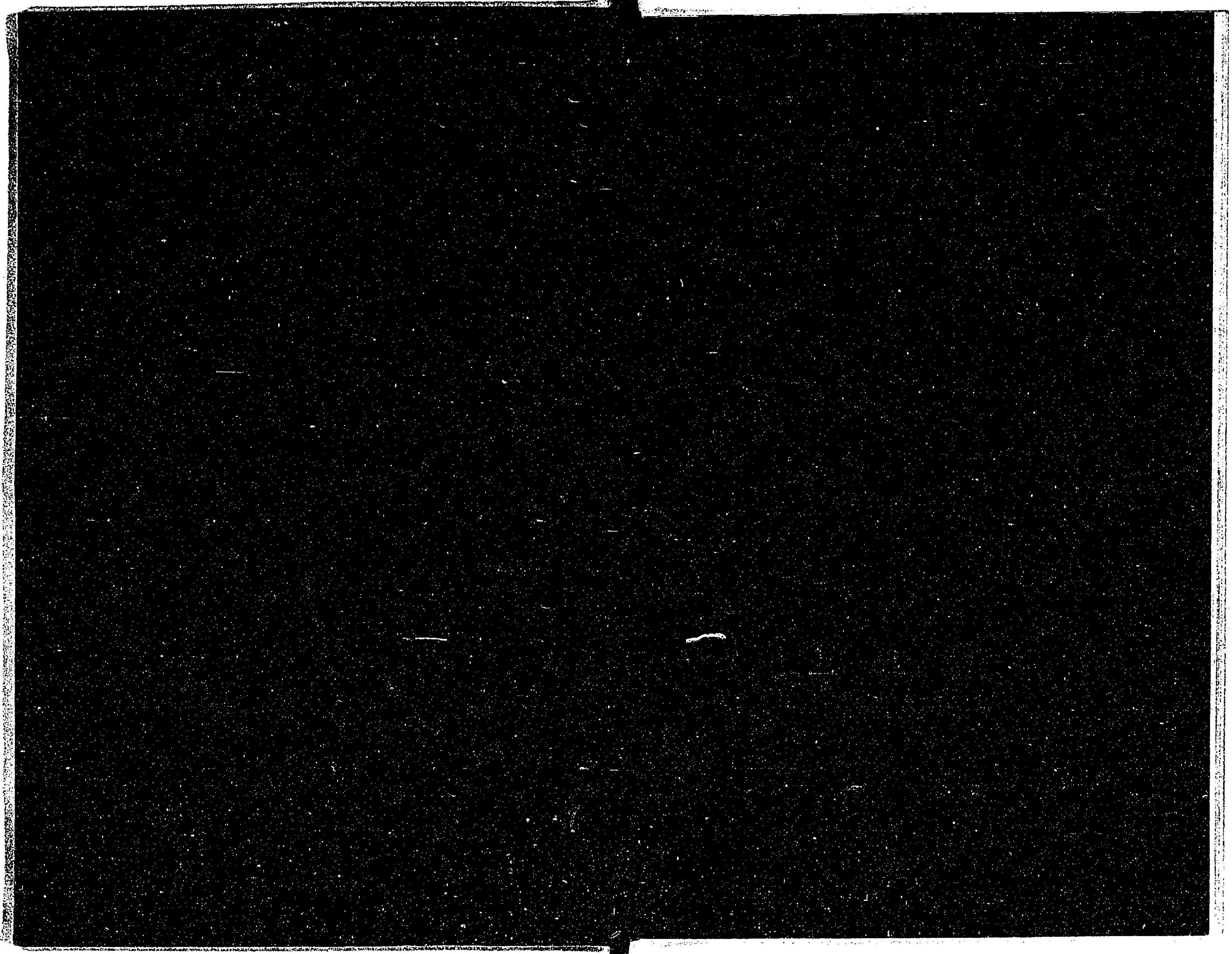
紙全一冊中判並製 郵正稅金貳拾五錢

同

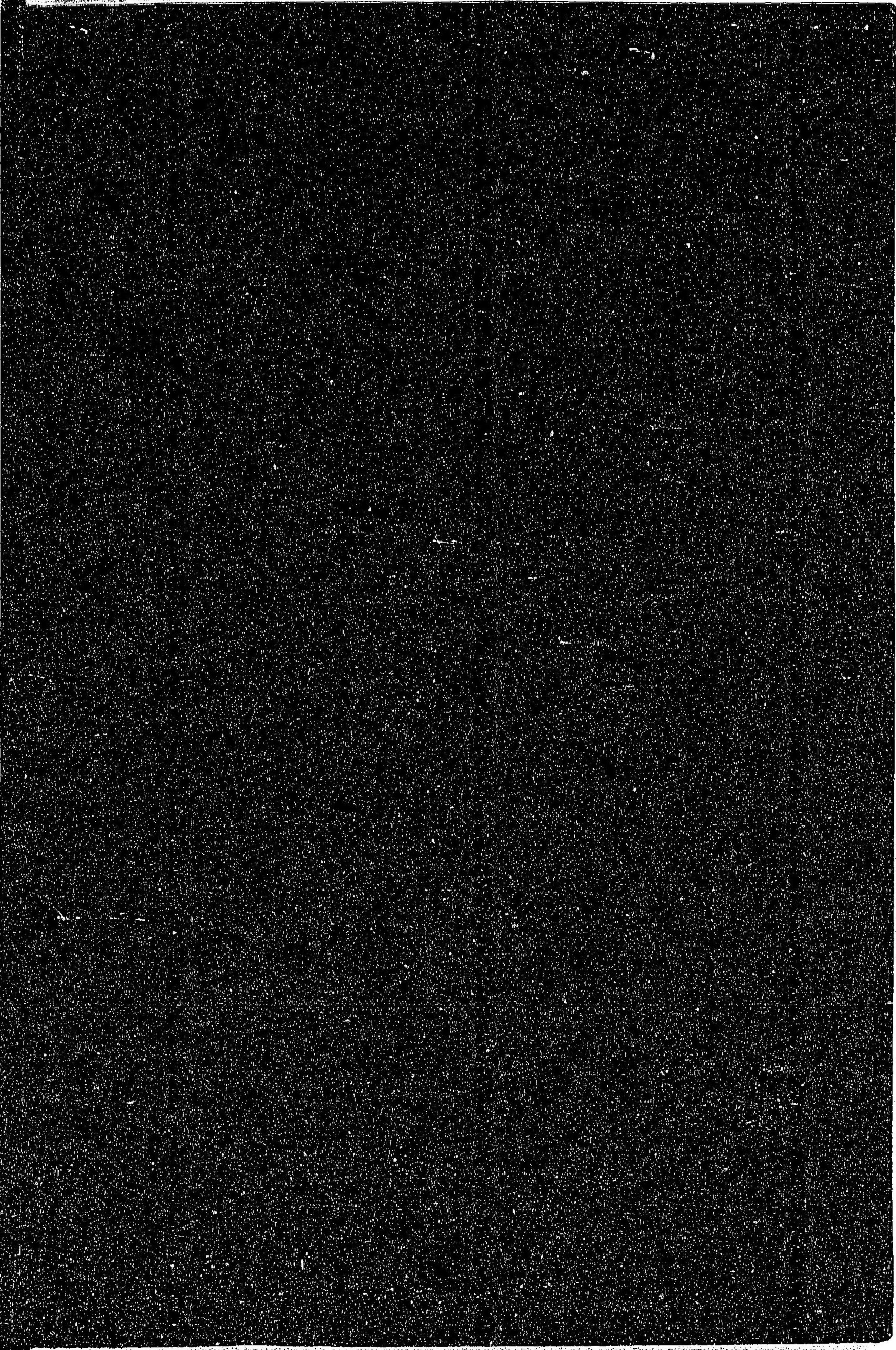
君講義

▲四書講義

紙全二冊中判並製 郵一冊稅金貳拾五錢







829.1

Ta289k

(M)

082534-000-3

829.1-Ta289k

韓語文典

高橋 亨/著

M42

DAF-0016

